

委員会 レポート

委員会では、付託された議案等の審査や所管する事項の諸問題について調査を行っています。



議員定数等調査特別委員会

今回のテーマ 議員定数

3月16日の委員会では、「議員定数」について、調査及び検討を重ねました。主な意見を要約すると、

▼隣接市の人口及び議員定数を参考に考えると、本市議会の定数は20〜22人が妥当なのでは。

▼ただ定数を削減すればいいというのは、いかがなものか。行政と市民のパイプ役が少なくなれば、市民の意見が反映されにくくなる。

▼定数削減と併せて議員報酬も考える必要がある。若い世代の議員をもっと輩出できるように考慮も必要なのでは。

今回は、定数を削減する方向で議論は進みました。具体的な定数については、次回の委員会でも引き続き検討していきます。

議員定数等調査特別委員会(平成21年6月設置)は、議会として自ら議員定数や議員報酬に関する事項の調査を行っています。

住民一体の観光を主体としたまちづくり

《建設委員会》 2月2日～3日

先進事例を調査

行政視察報告



●小布施ハイウェイオアシスとまちづくりについて

長野県小布施町

小布施町では、高速道路建設が具体化してきた昭和61年に「小布施町農協高速道対策委員会」が町全体の組織として発足し、町や議会、対策委員会が一体となって、道路公団や国・県等にパーキングエリアの設置を要望してきました。また、各種団体の代表等による「PA周辺活性化調査研究委員会」の中で特色ある地域振興策を検討したり、町

の総合計画の中にまちづくりの大きな柱として位置付けをしたりと、建設に向けた対応を進めてきた結果、平成5年にハイウェイオアシスとして認可され、同時に都市公園の整備に着手しました。平成11年度までに敷地面積約15ヘクタール、総事業費約53億円をかけてレストラン、売店、美術館、公園休憩所、広場等を完成させ、現在も時代にあつた施設としてドックランが設置されています。

このほかにも、「景観行政団体」の指定や個人の庭を観光客に提供する「オーブングーデン」の開設など行政、町民や大学が一体となって、町全体の自然や風土、景観を大切にすまちづくり活動を行っていることが非常に素晴らしいと感じました。

今後、東関東自動車道水戸線潮来〜鉾田間の開通を、本市の基幹産業である農業や観光の活性化にどうつなげるべきか、また、市内にあるこれまでの建造物や田園風景を大切にしながら、魅力のある都市づくりをどう進めていくべきかを小布施町を参考に考えていきたいと思います。

●日本下水道事業団について

日本下水道事業団は、下水処理に関する豊富なノウハウを駆使し、全国の処理場約6割の建設や下水道担当職員養成のための研修、下水道の新技術の開発及び実用化等を行っています。技術開発センターでは、大規模処理場に適用した新しい技術や下水処理水からのリン回収技術の開発など、効率的な水質浄化や省エネ・省スペースを図る実験が行われていました。

これらが実用化となれば、電気使用量の削減効果等も大きくCO2の削減に、また、省スペース化は処理場建設費用の削減に、リン回収技術はリサイクルやさらなる水質浄化につながると考えます。

本市では現在、新たな処理場建設計画はありませんが、将来を展望し、これらの技術の早期実用化を期待します。



すべての児童に豊かな放課後を



●放課後対策事業「子どもスキップ」について

東京都豊島区立清和小学校

「子どもスキップ」とは、文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」を一体的に取り入れ、小学校施設を活用して、全児童を対象とする育成事業と学童クラブを総合的に展開する放課後対策事業のことです。

現在豊島区では15箇所開設しています。

今回視察を行った「子どもスキップ清和」は、区立小

学校に隣接する区民広場に開設しており、利用届出状況は平成21年12月末で、全児童が届出を行っていました。運営は、年間事業目標を立て、地域や大学生のサークルなどボランティアの協力を得ながら、紙芝居、異年齢で集団ゲームなどを行っており、子どもたちが

地域の中で大切に守られ、育てられている様子が窺えました。

本市では現在、放課後児童クラブ、降園後保育を14箇所で行っていますが、今後市内全域の児童に拡充することを目標としています。子どもたちが安心して遊べる環境づくりや、働く若い世代の支援となる施策を、本市でもさまざまな分野の児童に対して一体的に展開し、地域ぐるみで児童の健全育成に努めていくことが必要だと思われました。



●乗合タクシーについて 千葉県酒々井町社会福祉協議会

酒々井町では、高齢者を含めた交通弱者の外出しやすい環境整備を図るために、デマンド交通システムにスクールバス機能を併せ持つ「巡回・デマンド複合型の新公共交通システム」の導入を進め、社会福祉協議会を運営主体とした運行委員会を設置し、平成16年6月1日から本格運行を開始しました。

酒々井町独自のシステムとして、乗り換えなしで町外2箇所の総合病院に対するピンポイント輸送が行われていました。また、登下校の時間帯には、スクールバスとデマンド型を統合した運行を行い、路線バス方式で決まった経路

《広報委員会》 2月25日



を巡回していました。

これまで、酒々井町のデマンドタクシー事業は順調に推移してきたと評価されています。しかし、利用者からはピンポイント輸送を行う病院の数を増やしてほしいなどの要望があり、さらなる事業の充実を図るために町の支援が必要であるとのことでした。今後は本市の公共交通の効率的な運行を求めるとともに、サービスの向上も追及しなければならぬと感じました。

●広報誌の編集について 株式会社ぎょうせい（東京都江東区）

今研修では、受託出版課の専門スタッフから、広報編集の「ステップアップのための基礎知識」について講義をいただき、情報発信元の役割、広報誌づくりの手順、魅力ある誌面づくりについて学びました。また、行方市議会だよりの講評をいただきながら、早速次号から生かせるような編集のポイントや文字・写真の効果的な掲載方法について教えていただきました。

研修を通して、魅力ある広報誌を作るためには、技術的なノウハウの前に編集方針をしっかりと固めることが大事であることが分かりました。これがきちんと確立されていないと、いくら工夫して誌面を飾っても発行目的を達せないものになってしまいます。議会だよりは、「開かれた議会」の有効な手段の一つです。市民に、議会及び市政に対する正当な認識、そして評価の材料となる情報を提供し、正しい批判と建設的な協力や参加意識が培われるよう、今後もよりよい議会だよりに努めていきます。